

# 明治大学の教育

Education of Meiji University

## 明治大学 ELM の活動とその目標

### これからの時代と ELM

「人間が生きものの生き死にを自由にしようなんて、おこがましいとは思わんかね」——本間丈太郎医師がブラックジャックに諭すように語った一節です。もっとも、それはブラックジャックだけではなく、読者である私たち一人ひとりへの《問いかけ》でもありました。

私たちにこの《問いかけ》をした手塚治虫が亡くなったとき、昭和という時代が終わり、平成という時代がはじまりました。間もなく、その平成も終わりを迎

えようとしています。この30年の間に、医学・医療の技術とそれを取り巻く社会環境は非常に大きく変わりました。

例えば技術面では、死者からの手の移植、iPS細胞を用いて組織や臓器の再生を目指す再生医療、AI（人工知能）を用いた診断などが、実現まであと数歩のところまでできました。社会環境面で起こった最も大きな変化は、1994年に到来した高齢社会、2007年に突入した超高齢社会だったと言えるでしょう。

このように私たちの社会は、新たな時代の幕開けとともに、SFやブラック

ジャックの世界で語られていたような、全能の魔術師のような存在へと変貌を遂げた医療技術と、大量死の時代である超々高齢社会と、否が応でも直面しなければならなりません。そこで現在、これらの技術的・環境的变化に対応するために、さまざまな法整備や政策が展開されてきています。昨年3月になされたアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を導入する終末期医療に関するガイドライン改訂も、その一つです。

これらの変化は、いずれも私たちの日常生活と密接にかかわってくることにあります。どこか違う遠い世界の話ではありません。「ACPをしておきましょう」と言われることは確実に増えるでしょう。「AIを使って診断しましょう」と言われることも、間違いなくこれから起こります。にもかかわらず、それらについて正確な知識や理解をもっている人は、決して多くありません。その理由のひとつは、これまで生命・身体・健康に関する社会的な問題を専門的に扱い、かつ継続的に資料や情報・知識を提供する組織も場所も機会も、ほとんど存在しなかったから

です。これからの時代、この種の情報や知識が、患者さんやそのご家族にとって、あるいは教育や研究の場で、そして何よりも社会にとって、より一層必要となってきました。その社会的なニーズに応える拠点——言いかえれば、明治大学の社会貢献施設——として設立されたのが明治大学 ELM（法・医・倫理の資料館）です。

ELM（「エルム」と読みます）は、ethics of Law, medicine of M を組み合わせたものです。つまり ELM は、医療に関する社会的な問題に対して、法あるいは倫理の視点から取り組んでいる資料——学問分野で言うならば、医事法と生命倫理に関する資料になります——を専門に取り扱う資料館です。「国民の健康に」とを目的として2010年に事業がスタート、2014年に設立されました。現在、ELMはこの目的を実現するために、大きく2種類の活動を展開しています。

### ELMの活動

#### 資料館としての活動

ELMが取り組んでいる一つの活動が、資料館としての活動です。医事法や生命倫理に関わる資料は、例えば病気や怪我・障害によって患者さんやそのご家族に生じる社会生活上の困難を軽減し解消するために必要な《生活の支援にかかわる情報》でもあります。ところがこれらの資料は、多くの医学図書館や大学図書館・公共図書館では、利用者層や性格・運営予算等の制限により、なかなかカバーできない資料となっています。そこで ELM は、①医事法や生命倫理にか



ELM 館内の様子

### PROFILE



#### 小西 知世 Tomoyo Konishi

法学部准教授 ELM 運営委員長

國學院大学法学部卒業後、明治大学大学院博士後期課程法学研究科を単位取得退学。筑波大学人文社会科学研究科准教授を経て現職。

日本臨床細胞学会臨床試験審査委員会顧問や東京都メディカルコントロール協議会専門委員会委員なども勤める。研究分野は医事法。

著書に『医と法の邂逅』など

かわる古今東西の資料をひろく収集し、  
 ② 明治大学の関係者であるか否か、専門家であるか否かにかかわらず、あらゆる人々に分け隔てなく資料を公開・提供し、  
 ③ 学ぶことができる場所も提供する、という三つの活動を資料館活動の柱として展開しています。

### 研究教育機関としての活動

しかし、ELMが掲げる目的は、資料館活動だけでは実現できません。医と法と倫理に関する問題を、積極的に社会に示して、問いかけて、ともに考えていく必要があります。そこでELMは、2015年から、ELMの事業活動に賛同し協力を申し出てくださった先生方を客員研究員としてELMに招聘し、研究教育活動にも積極的に取り組みはじめました。これが、ELMが取り組んでいる二つめの活動です。ここしばらくの主な活動について、簡単に紹介しておきたいと思えます。

### ELMの夢の在処

早晚遠からず、明治大学ELMは、医と法と倫理をめぐるさまざまな種類の社会的問題に対して、資料館と研究教育機関という二つの活動から取り組む国内屈指の拠点となります。しかし、ELMは拠点となることを最終目標とはしていません。ELMは、「国民の健康にして文化的な生活」を実現した先にきつとある、「この世に生を受けた誰もが最期の瞬間を迎えるまで生きることの素晴らしさ・喜びを享受することができ、幸せになれる。幸せである社会を創り出すこと」を最終目標としています。たとえそれが夢物語である、実現不可能であると言われたとしても、ELMは迷うことなく夢を信じ、一歩一歩前進し、一つずつ実現していきます。温かいご支援のほど、なにとぞよろしく願います。

ELMは、随時、寄附・寄贈を受け付けております。詳細につきましては、ELMまでご連絡ください。

事業経過	
2010年	明治大学法学部「医療と法と倫理(ELM)専門総合資料館」(仮称)創立推進事業準備室設置、第1期事業計画策定
2013年	第16回ホームカミングデーにて企画担当(「法学部、専門法曹、そしてELM—法律学の今を踏まえて—」)
2014年	施設工事了り・仮開館開始、名称を「明治大学ELM」(法・医・倫理の資料館)に決定、運営委員会設置、設置・運営内規制定、内覧会開催
2015年	本開館、客員研究員招聘、開館記念講演会・記念シンポジウム開催
2016年	第2期事業計画策定
2017年	収蔵資料データベースを公開
2018年	法律図書館連絡会入会、アカデミック・フェスで企画担当(「医療とAI—多角的な視点から—」)
2019年	国際シンポジウム開催(「医薬品・医療機器をめぐる日独諸制度の比較」)、5月より遠隔地複写依頼受け付け開始、年度内に高齢者向け講座(社会貢献企画)新規開講予定

施設概要	
施設概要	敷地面積 107.70㎡
閲覧席	6脚
複写機・利用者検索用PC	各1台
担当スタッフ	3名
収蔵資料数(2018年9月現在)	
収蔵図書数	約18,000冊
収蔵文書数	約35,000件
未登録図書数	約10,000冊
未登録文書数	約35,000件

活動状況	
客員研究員	11名
主な活動	<b>医療従事者向け</b> 教科書の企画・編集(『看護をめぐる法と制度』メディカ出版) 医学系雑誌での連載(『医療と法の潮流を読む』医学書院刊「病院」)
	<b>一般向け</b> ハンセン病問題校外学習会 ※年2回開催 リバティアカデミー「江戸・明治期の医学・医療の歴史」 リバティアカデミー(高齢者向け講座)※2019年度開講予定
	<b>研究者向け</b> 「医事法学界の歩み」 ※毎年5月公表 シンポジウム企画・開催(「医療とAI」:明治大学アカデミックフェスにて) シンポジウム企画・開催(「国際シンポジウム 医薬品・医療機器をめぐる日独諸制度の比較」) 『明治大学ELM 山崎佐旧蔵資料目録』(石野智大著)



医事法や生命倫理に関する蔵書を収集している

部・専門学校で用いる教科書の企画・編集や、医学系雑誌への1年間にわたる連載などがあります。

二つめは、一般の方々に向けた教育活動です。ハンセン病問題校外学習会は、鈴木利廣明治大学学長特任補佐・東京地裁ハンセン病訴訟原告弁護団副団長をコーディネーターとして、ハンセン病問題を通じて人権を考える校外学習会です。また、明治大学リバティアカデミーで、2016年度から順天堂大学医学部医史学教室とともに「江戸・明治期の医学・

医療の歴史」を開講しています。今年度から、社会貢献企画として高齢者向けの講座を新規開講する予定となっています。最後は、研究活動です。2018年度は、ELMに収蔵されている貴重資料を紹介する『山崎佐旧蔵資料目録』を上梓しただけでなく、11月に開催されたアカデミック・フェスでは明治大学自動車転社会総合研究所医療AI部門と「医療とAI」というテーマでシンポジウムを企画・開催し、3月には明治大学法学部比較法研究所とともに国際シンポジウム「医薬品・医療機器をめぐる日独諸制度の比較」を企画・開催いたしました。日本とドイツの医薬品・医療機器に関する制度を比較する国際シンポジウムが行われたのは、残されている公的な記録を見る限り1978年に1度開催されただけだったこともあり、各界が注目した意義ある企画となりました。また、医事法学界を、当該年度に公表された文献を通じて俯瞰し動向を分析・紹介する「医事法学界の歩み」も2016年度からはじめました。これも徐々に各界から注目される取り組みとなってきております。

ELMの活動状況、企画につきましては、ELMのホームページ(<https://www.meiji.ac.jp/hogaku/elm/>)およびTwitter(@meiji\_elm)にて、詳細をご案内しております。ぜひご覧ください。